

学校だより 	 令和6年 7月号 7月1日発行	教育目標 やさしさ つよさ たくましさのある さくら小の子 大島町立さくら小学校 〒100-0102 大島町岡田字長坂 113 電話 04992-2-8021 ファクシミリ 04992-2-8853 E-mail 02T000@izu-oshima.ed.jp [大島町立さくら小学校] [検索]
--	--	---

～重点目標～「やさしさ」のあふれる学校 2

校長 石原 一彦

先日行った道徳授業地区公開講座にはたくさんの方にご参観いただきありがとうございました。また、授業参観後に行った講演・懇談会にもたくさんの方にご参加いただきました。講演を行っていただいた井島吉春様からは、気持ちが落ち込んでしまったり、考え込んだりしてしまったときには、少し姿勢を正して手のひらを上に向け、ゆっくりした呼吸を繰り返したり、その際に楽しいことを考えたりすることで、心を落ち着け平静に戻す方法を教えていただきました。この会の冒頭で私からは、「いじめ」のことについて話をさせていただきました。平成25年に「いじめ防止対策推進法」が成立し、第二条に「いじめ」が再定義されました。すでに

10年が経過していますが、これによると、「いじめ」は、

◆いじめの定義を再確認◆

①行為をした者(A)も行為の対象となった者(B)も児童・生徒であり、②AとBの間に一定の人的関係が存在し、③AがBに対して心理的又は物理的な影響を与える行為をしたことで④行為の対象となったBが心身の苦痛を感じていること

①～④の4つの要素で定義されています。かつてのいじめの定義には「自分よりも弱い者に対して一方的に」、「継続的に」、「深刻な苦痛」との要素が含まれていましたが、新しい法律上の定義にそれらの要素は含まれていません。このことから今日では、相手に対して心身の苦痛を感じさせないということがいかに重要視されているかが分かります。

子供たちは、友達との関係で様々な問題に出会います。できるだけ小さな問題の時点で、このようなことを学び、よりよい解決法を身に付けさせることで、大きな問題へと発展しないようにしていくことは、私たち大人の責務です。子供たちが安心して生活し健やかに成長することができるよう学校、保護者、地域が力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

また、この法律の第15条に「児童等の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図らなければならない。」と書かれている通り、子供たちが心を通わせあい、安心して生活ができるよう教育活動の充実を図っていききたいと思います。

ことだま 「言霊って」

【7月の生活目標】言葉づかいにきをつけよう

7月 生活目標担当 中山 開

「言霊」を辞典(大辞泉)で調べてみると、言葉に宿っていると信じられていた不思議な力。発した言葉どおりの結果を現す力があるとされた。と出てきます。「言霊」を信じるか信じないかは人それぞれですが、子供たちと接していると言葉の力を感じることが多々あります。例えば「逆上がりができるように頑張ります!」と言っていた子が数日後に軽々と逆上がりができるようになっていたり、「九九を覚えてきます!」と言った子が、次の日にはスラスラと言えるようになっていたりします。しかし、反対に「私なんかにはできないよ。」や「俺には無理だ……。」などの言葉も聞こえてきます。本心ではなく保険をかける意味で言っているのか、照れ隠しで言っているのかは分かりませんが、子供たちには「自分をいじめないよ!」と声を掛けています。

全校集会では、自分に対する言葉遣いとして「言霊」を紹介しました。自己肯定感を高める第一歩は、自分が自分を認めることだと思います。自分を信じて、自信をもって物事に取り組むことができる心を育ていけるよう指導していきます。

だれかを応援するときに皆さんは、何と声を掛けますか？応援の言葉として代表的な言葉が「がんばれ」ではないかと思います。野球やサッカー、バレーボールなどの試合や勝負事の時だけでなく、学習発表会やピアノの発表会などの発表の場でも応援をします。宿題や、やる気が出ない時に励ます場面などでも日常的に「がんばれ」と応援しています。そして、多くの人が、応援されるとなぜか力が湧いてきて頑張れるといった経験をしたことがあるのではないのでしょうか。

一方で、「もう頑張っているのにこれ以上頑張れないよ」と思う人もいるかもしれません。たとえば、視力の弱い人に、遠くの文字を「がんばって見たら見えるよ!」と応援しても「頑張ってもできないよ～」となりますし、歯が抜けた人に「がんばって早く食べて!」といっても時間がかかってしまいます。

では、身近にそういう人がいたら皆さんはどうしますか。視力が弱い人には眼鏡を勧めたり、前歯が抜けた子には「奥歯でよく噛んで食べようね」と言ったりしますよね。「気合が足りないからだ!」と怒ったり「なんでできないんだろう」と嘆いたりすることは少ないのではないかと思います。

実は、脳の機能的に「文字が読みにくいタイプ」や「たくさんの情報を処理しづらいタイプ」のお子さんがいます。勉強はわかるのに、「書くのが苦手」というタイプの子もいます。それは「がんばり」や「気合」ではどうしようもない部分です。そして、学校ではそのような状態を「障害」などというよりも「個性」と捉え、その子の実態に合わせて、個別に対応していくことが求められています。その一人一人の個性に合わせた指導の延長にあるのが、特別支援教室『あおば教室』です。

あおば教室では、お子さんの得意なところを伸ばしたり、苦手な部分をどうしたら出来るかを考えたりという学習をしています。一对一の落ち着いた環境で個別にじっくりと課題に向き合ったり、少人数の集団の中で、話の聞き方や人との適切な関わり方、心のコントロールなどについて実践的に学んだりしています。

「やる気はあるのだけれど、上手いできない」「一生懸命にやっているのにできない」「どうしても漢字が覚えられない」など、お子さんのことで気になることがありましたらお気軽にご相談ください。

【相談窓口】

担当者	勤務日
学級担任 / 養護教諭:小杉(特別支援コーディネーター) 特別支援専門員:石田	毎日
特別支援巡回指導教員:長嶋(特別支援コーディネーター)	月曜午後 水曜 金曜
スクールカウンセラー(SC):大賀	火曜 or 水曜

SC の勤務は、不定期なことがあります。勤務日はご確認ください。

※相談内容については、秘密は守りますが、必要に応じて校内で連携を図り、チームでお子さんの成長のために支援していくことがあります。

体験だけで終わらせない～自然教室～

5年担任 小池 良太郎

6月20日・21日、5年生は自然教室に行ってきました。子供たちは、5月からこの日を楽しみにしていました。2日目はあいにくの荒天となってしまいましたが、子供達は活動内容の変更にも動じず、体育館でパラスポーツを楽しみました。班長を中心に声を掛けあい、臨機応変に行動するたくましい姿が見られました。



今回の自然教室では、友達と協力する事はもちろん、総合のテーマである「食」についても考える時間となりました。ゲストティーチャーによる「塩づくり」体験や、自分たちでつくったアイスクリーム・カレーライス。食べ物を食べられることの有難さを実感する機会となりました。たくさんの人々に支えられた自然教室は、子供達にとって大切な思い出となったようです。

今回体験したことを体験だけで終わらせず、日常の生活でも心掛けていってほしいと思います。自然教室を通して一皮も二皮も剥けた子供たち。彼らが学校を引っ張っていく姿が今から楽しみです。

さくら小学校のHPが変わりました。これからさらに更新していきます。

<https://www.town.oshima.tokyo.jp/site/oshimasakura/>

